

曙杉



東神吉っ子

「すすんで考える子」

「こころ豊かな子」

「強くたくましい子」

特別号

令和5年9月29日

加古川市立東神吉小学校

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果

6年生を対象に4月に実施しました全国学力学習状況調査の結果が学校へ返却されてきました。この調査の目的は、児童の学力（国語・算数）・学習状況を分析し、学習意欲を高め、学習内容の定着を図っていくことです。本校の結果及び概要等をお知らせいたしますのでご確認ください。

学習について

○…成果が見られたところ

◇…課題が見られたところ

国語

○『思考力、判断力、表現力』において「話すこと・聞くこと」「読むこと」の力は、概ね成果が見られました。特に、目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約する力と、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える力に成果が見られました。

◇『知識及び技能』において「漢字を使って書き直す」ことにおいて課題が見られました。毎日の漢字学習や、朝の学習の時間を使って漢字を正しく使うことができるよう引き続き学習時間を確保します。また、様々な考え方に触れる学習活動（協同的探究学習）を通して根拠や理由を示しながら、書いたり伝え合ったりする活動の充実を図っていきます。

【学習状況調査より】

「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」と、全員が肯定的に捉えています。この捉え方の元には「言葉には相手との好ましい関係をつくる働きがあることについて学んでいる。」「授業の中で立場や相手の考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめている。」「書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。」と答えた児童が多いことが考えられる。現在、学校全体で取り組んでいる協同的探究学習の成果が表れていると考えられます。

算数

○『知識及び技能』において 50×40 の問題や $(151 + 49) \times 3$ と $151 \times 3 + 49 \times 3$ を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める計算する力や、「図形領域」の正方形の意味や性質についての理解において高い成果が見られました。

○『思考力、判断力、表現力』において「変化と関係領域」の比例の関係について知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述する力において概ね成果が見られました。

◇『思考力、判断力、表現力』において「図形領域」の高さが等しい三角形の面積の大小について判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する力に課題が見られました。ICTを活用し、計算の根拠を確認します。

◇『知識及び技能』において「データの活用領域」のアンケート結果の表から条件に合う数を読み取ることに課題が見られました。日常の場面と対応させながら理解を深めさせていきます。

【学習状況調査より】

「算数の勉強は好きである。」「算数の勉強は大切だと思う。」「算数の授業で学習したことは、将来、役に立つと思う。」と答えた児童の割合は、県や全国と比べて高くなっています。また、「算数の現況が好きである。」「算数の授業の内容がよく分かる。」と答えた割合も高いことから、協同的探究学習の手法を用いた、「分かる授業」を推進していきます。

生活について

生活習慣について

「朝食を毎日食べている。」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている（起きている）。」割合は高く、規則正しい生活習慣が身に付いていることがうかがえます。引き続き、毎学期実施している『元気アップ週間』等により、家庭と連携しながら健康な体作りを推進していきます。

家庭学習

「家で自分で計画を立てて勉強をしている。」と答えた割合は高く、読書の時間は過年度より改善が見られ、新聞を読む児童の割合も増え、「読書は好き」と答えた割合が県・全国より高くなっていることより、図書館教育の改善に向けた取り組みが一定の効果をあげています。

その一方で、学校の授業以外に勉強をしている時間は短く、学校が休みの日にはほとんどしていないと答えた児童の割合が高くなっています。また、ICT機器の活用に対して肯定的な回答の割合が全国平均を下回っていることから、ICT機器を活用した家庭学習を積極的に取り入れるよう学校全体で推進します。

自己有用感

多くの児童が「自分には良いところがある。」と感じています。その一方で、約10パーセントの児童が自分によいところがあると感じていないと答えています。高学年である6年生は学校行事、委員会活動、通学班などでリーダーシップを発揮する場が多く、そこで達成感や満足感を味わわせ、自分からチャレンジする心を育み、さらに自己肯定感を高めさせていきます。

いじめについて ・ 規範意識

「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。」と答えた児童が96パーセントと高くなっています。引き続き児童会活動を中心にいじめを許さない学校づくりを推進していきます。「人が困っているときは進んで助けている。」と答えた児童が92パーセント「人の役に立つ人間になりたい。」と答えた児童も96パーセントとほとんどの児童が答えていました。これからも、友達のいいところを認め合い、助け合える関係が育めるように学級活動を通して指導していきます。

東神吉っ子の全般的な傾向と対策

学習についての結果は国語、算数共に全国平均値を上回り概ね成果が見られました。「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。」と答えた児童が88パーセント、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」と答えた児童が84パーセントとなっていることから、友達の考えを聞くことにより、さらに深く考え、自分の生活に生かしていく力が育ってきていることが学力の定着につながっていると考えられます。引き続き、協働的探究学習の手法を取り入れた授業改善を推進していきます。

生活についての結果は、「学校に行くのは楽しい」と感じている児童が92パーセント「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがよくある。」と感じている児童が57パーセントとなっています。これは、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。」「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う。」が、共に92パーセントと高くなっていることに加え、「友達関係に満足している。」92パーセントと、自分を取り巻く人間関係が良好であることが大きく影響を与えていると考えられます。また、地域行事にも進んで参加し、地域の一員としての自覚も高まっています。これからも、地域・家庭・学校で協力しながら児童の健全育成に努めていきたいと思えます。